

# 熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2023

## 4月上旬からの遮光開始がトマト黄変果低減と可販果収量確保には有効

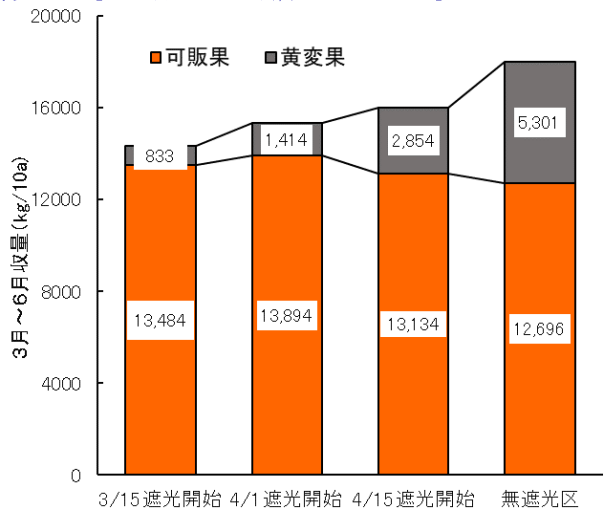


図1 遮光開始時期と3～6月収量および黄変果発生量の関係

### 問 研究のねらいは？

答 4月～6月の暑い時期に、トマトのへた周辺が赤色に着色しない黄変果の発生が問題となっています。産地では対策として遮光が導入されていますが、明確な遮光開始時期の基準がありませんでした。この研究により、生育や収量等を確保しながら、黄変果低減に効果的な遮光開始時期を明らかにすることを目的としました。

### 問 遮光開始時期の違いから分かったことは？

答 遮光開始を3月15日、4月1日、4月15日の3条件で比較すると、

- 1 黄変果の発生量および発生率は、遮光開始が早いほど減少します。(図1)
- 2 総収量は遮光開始が早いほど少なくなりますが、黄変果の規格外品を除いた可販果収量は4月1日遮光開始が多くなります。(図1)
- 3 遮光開始時期の違いによって生育や糖度には明確な差はありません。

したがって、4月上旬からの遮光開始がトマト黄変果低減と可販果収量確保には有効です。

### 問 栽培または普及するうえで注意する点は？

答 この研究では遮光率約50%の遮光資材を使用しています。使用する遮光資材の遮光率によって黄変果低減程度や収量等に及ぼす影響が変わりますのでご注意ください。